

【短報】オオチビマルハナノミ京都府八幡市で採集

オオチビマルハナノミ *Yoshitomia beattyi* (Pic, 1918) は京都府のレッドデータブックで絶滅寸前種とされており、最近では宇治市木幡池でのみ生息が確認されている(水野, 2001; Yoshitomi, 2005)。府下では、木幡池以外での記録として、京都市伏見区と八幡市からの古い記録がある(後述)が、それぞれ1例ずつあるのみであった。今回40年ぶりに八幡市からの生息が確認できたので報告する。

1ex., 京都府八幡市男山, 12-IV-2014, 谷壽一採集;
1ex., 京都府八幡市男山, 22-IV-2014, 伊藤建夫採集。

採集地点は石清水八幡宮境内であるが、水系は道路を隔てて大谷川に面しており、また近くには放生池(ほうじょういけ)がある。大谷川(図2)は天候により水位は安定しないので、おそらく放生池(図3)が幼虫の生息地ではないかと考えられ、今後の調査が待たれる。

なお、上述の府下の古い記録は以下の通りである(いずれも大阪市立自然史博物館所蔵)。

1ex., 京都府八幡市淀川三川合流点, 28-IV-1974, 後藤光男採集; 2exs., 京都市伏見区淀, 6-V-1934, 木村輝夫採集。



図1-3. 京都府八幡市のオオチビマルハナノミ。1, 採集個体; 2, 大谷川; 3, 放生池。

最後になるが同定の労をとられ、また貴重なデータおよび文献等を種々ご教授頂いた水野弘造氏(宇治市)、標本の発表を委ねられた谷壽一氏(八幡市)および大阪市立自然史博物館の初宿成彦氏に御礼申し上げます。

引用文献

- 水野弘造, 2001. 水野弘造の20世紀甲虫誌 - 虫寿記念 -, 関西甲虫談話会資料, (18): 1-146.
Yoshitomi, H., 2005. Systematic Revision of the Family Scirtidae of Japan, with Phylogeny, Morphology and Bionomics (Insecta: Coleoptera, Scirtoidea). Japanese Journal of systematic Entomology, Monographic series, (3): 1-212.

(伊藤建夫 614-8371 八幡市男山雄徳7, E12-102)

【短報】ニセヒメキノコゴミムシ沖縄島からの2例目の記録

ニセヒメキノコゴミムシ *Coptodera marginata* Dupuis, 1912 は台湾原産で、日本からは吉武ら(2011)による1952年に鹿児島県佐多岬からの採集記録が最初である。その後1963年に西表島(吉武ら, 2011), 1967年に屋久島(吉武ら, 2011), 石垣島からは1973年(初宿, 2012), 1974年(深町, 1975)と記録されているが、いずれの記録も40年以上前の古い記録で、採集例の少ない種である。沖縄島からは田尾(1988)により国頭郡与那から記録されたが、その後の採集記録は見られない。そこで本種の沖縄島2例目の記録として報告しておく。

1♀, 沖縄県国頭郡東村高江, 30. VIII. 2014, 楠井善久採集。

森林内に設置したライトトラップに飛来した。上野ら(1985)によると上翅の波形の後紋は太いとされているが、この個体は細く、また上紋は縦長で小さい。

高江地区は沖縄島北部のいわゆる山原地方の南部に位置し、亜熱帯林が豊かに展開している土地である。この採集地付



図1. ニセヒメキノコゴミムシ(沖縄県東村高江産)。

近は米軍輸送機オスプレイの着陸地として工事が進められつつある地域で、樹木に依存する本種の生息環境の破壊が心配される。

報告にあたり、同定と分布に関して森正人氏に多大なお世話をいただいた。また採集には宮城秋乃氏に協力を得たことを記して両氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 深町宗通, 1975. 南西諸島におけるアトキリゴミムシ類の知見. *Elytra*, 2: 23-24.
 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (II), 514 pp., 保育社.
 初宿成彦編, 2012. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録 (2). 大阪市立自然史博物館所蔵資料目録第 44 集, 372 pp.
 田尾美野留, 1988. アトキリゴミムシ 3 種の分布記録. 月刊むし, (214): 4-5.
 吉武啓ほか, 2011. 農業環境技術研究所所蔵の土生コレクション標本目録. 農業環境技術研究所報告, (28): 327 pp.

(楠井善久 903-0805 那覇市首里鳥堀町 4-123-1 東苑荘 1-E)

【短報】九州におけるナオミヒメコメツキの追加記録

ナオミヒメコメツキ *Dalopius naomii* Kishii, 1981 は、岐阜県、新潟県、長野県で得られた標本をもとに記載され、その後、青森県、岩手県、秋田県、福島県、栃木県、山梨県、静岡県、福井県など主に東北地方や中部地方から記録されている (Kishii, 1999; 大平・稲泉, 2003; 大平・井上, 2004; 大平, 2006; 尾崎ら, 2006). 個体数の少ない種ではあるが、東北地方からは単発的に比較的多くの個体が記録

されている (大平・千葉, 1997). 一方、近畿地方以西からは大分県 (堤内, 2000) の 1 例のみが知られており、地理的に大きく隔たった分布を示している。筆者は、九州からは 2 例目となる個体を採集しているので、ここに記録しておく。

2♂, 大分県由布市黒岳 (942 m), 23. VI. 2011, 筆者



図1. ナオミヒメコメツキ *Dalopius naomii* Kishii, 1981, ♂, 全形, 大分県産. スケール: 1.0mm.

採集・保管

採集した個体は夜間 19 時 30 分から 23 時 30 分に 4 ワットケミカル蛍光灯を林内に設置して採集したものである。ライトに誘引された例は初めてである。採集場所の黒岳は九州から初めて記録された場所と同じであり、西日本ではここでしか得られていないことになる。堤内 (2000) の記録では 4 月 25 日と 5 月 5 日に 1 雄個体ずつが得られているが、本報告のように 6 月下旬まで雄個体が生存していることが確認された。

ヒメコメツキ属 *Dalopius* の種は、概して小型で外形が非常に類似しており、同定は難しいが、本種は本属としては大型で、斑紋を欠く様な茶色の体 (図 1), 雄挿入器の中央片が著しく幅広いといった顕著な特徴があるため、識別は容易である (大平・千葉, 1997). Platia & Németh (2011) は大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国から本種を記録している。この論文の中では形態の記載はされていないが、全形と雄挿入器の写真が掲載されている。この雄挿入器の写真はやや白とびしており、側片の形状はわかりづらいが、中央片の形状、体色と合わせて日本産個体との大きな差異は見いだせない。このことから、両産地の個体が日本産種と同種という判断は正しいと思われる。

引用文献

- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). *Bulletin of the Heian High School*, 42: 1-144.
 大平仁夫, 2006. 山梨県産コメツキムシの分布記録 (I) - 栗原桂一・春江夫妻採集の標本に基づく記録 -. *New Entomologist*, (55): 53-60.
 大平仁夫・稲泉三丸, 2003. 栃木県から分布上興味あるコメツキムシ類の記録 (19) - 栃木県に分布する *Dalopius* 属について -. *インセクト*, 54(1): 8-16.
 大平仁夫・井上重記, 2004. 福井県産コメツキムシ若干種について (4). *福井虫報*, (34): 21-23.
 大平仁夫・千葉武勝, 1997. 分布上興味のある岩手県産コメツキムシ 2 種の記録. *岩手昆虫會報特別号*, 1: 114-118.
 尾崎俊寛・佐藤福男・沼田 仁・加納彦一, 2006. 秋田県のコメツキムシ. *秋田自然史研究会*, 74 pp.
 Platia, G. & Németh, T. 2011. On some Palaearctic click beetles deposited in the Hungarian Naturak History Museum (Coleoptera: Elateridae). *Annales Historico-Naturales Musei Nationalis Hungarici*, 103: 65-106.
 堤内雄二, 2000. 九州未記録のコメツキムシ 5 種. *月刊むし*, (356): 40-41.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)